

滋賀県甲良町から十三名！

大河ドラマ実現に向けて交流

二月二日、底冷えと凍りつく寒さの心月院本堂において、遠く滋賀県甲良町よりお越し頂いた在士（さいじ）村づくり委員会十三名の方々とNPOドラマ九鬼奔流で町おこしをする会との交流会がもたれた。九鬼奔流のホームページをご覧になり自分達の村おこしに、また、大河ドラマ誘致の参考になればと研修と交流を兼ねて来られたのである。

藤堂高虎を大河ドラマへ
大河ドラマに関しては、九鬼奔流とてNHKに採用されたわけではなく、「白洲次郎」が、今秋NHKでドラマ化される

合わせた新たなテーマ「福沢諭吉」で大河ドラマ実現を模索している段階だ。尚この中には三田に係わる人物が数名登場する。



村だが藤堂高虎の出生地と言う。滋賀県と言えば数々の武将の名が思い浮かぶ。浅井長政、織田信長、豊臣秀吉、明智光秀、山之内一豊、井伊直弼、もつとさかのぼれば佐々木氏、六角氏、京極氏、考えただけでもわくわくしそう

な名ばかり。その中で藤堂高虎？ちよっと知名度は落ちるかもしれない。しかし私とて名前は、十分に聞いたことはある。

主君を選ぶ実力派

頂いたパンフレットを読ませて頂くと数々の武功をなした人物である。数々の武将に仕え、後に豊臣秀長に仕え、朝鮮征伐にまで出兵しているが、秀吉が亡くなると、急速に徳川家康に接近し、家臣となる。しかも、家康に武功をたたえられ、信頼を寄せられ臨終の席では、外様では高虎のみ枕元に侍ることを許されたらしい。世渡りがうまいと言えはそうなのだが、ここまで家康に寵愛されたのは、やはりその人物の人格であろう。

大河ドラマの条件は？

大河ドラマに採用されるには、次の条件が必要だとNHKの担当者に言われた旨をご披露。
①その人物は全国的に知名度が高いか？、②その人物をテーマにした書籍がベストセラーになったかどうか？、③戦国時代か幕末のどちらかの人物か？在士のむらづくり委

員会のみなさま、お互いがんばりましょう。
心月院は歴史の宝庫

本堂で震えながらの交歓の後、ご住職の配慮で一般には公開されないお殿様の控室、書や地図の掛け軸など、数多くのお宝を見学することができ、大変喜んで頂けた。中には九鬼家十代藩主隆国の肖像画があったが、「藤堂高虎より美男子や」との声も！



心月院境内の散策。雪の舞い始めた心月院墓所のご案内。先頭に立つて案内するのは、われらが郷土史研究家の高田義久氏。九鬼氏が三田に移封される前の守隆ほか代々の藩主の墓地をはじめ、明治初期の文部官僚 九鬼隆一、今白洲次

郎・正子で話題の白洲家、そして九鬼隆義を中心に明治時代に全国から集められた歴代藩主の正室ほか九鬼家の墓所を順次ご案内。やはり、白洲次郎・正子の墓碑や、英文で書かれた肇姫の墓碑に関心が集まっていたようだ。終了予定時刻の16時、心配された雨も降り始め、予定していた明治擬洋風建築九鬼氏住宅の見学は中止し、お開きとなった。山門前で記念撮影を行った後、ご一行はマイクロバスで帰路についた。

た。凍りつくような本堂で、みぞれ交じりの境内で、寒い一日ではあったが、我々として充分意を尽くした暖かい交流となったと信じている。



夫婦で探した先祖のお墓 新たな出会い

心月院の墓所と言えば、私達夫婦にとつて特別な響きがある。先祖が代々、九鬼のお殿様に仕えていたが、どう言うわけかご先祖様の墓が見つからない、今まで親戚筋の方々も再三訪れ住職に尋ねたが、全くわからずじまいだったところが、二年前、主人の父が亡くなった時のことである。絶対どこかにあるはずだと二人で墓石をひとつ、ひとつ調べていった。すると心月院の出口近くの奥の奥にあったのだ。婦人の名で聞いた事もない名が。まるで永い眠りから目覚めた白雪姫の様な輝きを感じた。会った事もない方なのに不思議な感覚である。父は亡くなったけれども、新たな出会いであった。

九鬼奔流通信

2008. 冬
Vol.004
発行：NPO法人 九鬼奔流で町おこしをする会

三田を全国に発信しよう！ 増えた歴史ウォーク

二〇〇八年が明けて早くも一ヶ月半が経過した。昨年を振り返ると、川本幸民祭りでの歴史ウォーキングにはじまり、NHKの「新兵庫史を歩く」の撮影と放映、兵庫県教育委員会による歴史ウォーキングなど、三田の歴史を訪ねるウォーキングが目に見えて増えてきたように感じる。二月七日に放映された「新

兵庫史を歩く」を見た市民の多くから、三田の歴史も大したものだという声がかかれ、改めて見直したという方々が大変多いようである。
「白洲次郎」が宝塚に続き今秋NHKでドラマ化
また、昨年一月二三日に三田ユネスコ協会主催で開催された国際理解講演会で北康利氏は「福沢諭吉―国を支えて国を頼らず」の演題で講演を

行ったが、市議会議員を含む多くの市民が聴講、福沢諭吉の生き様もさることながら、福沢諭吉と三田の関係に興味と理解を示してくれた。
この講演会の中で北氏は『白洲次郎』は今年の秋以降にドラマ化されること、既刊の『川本幸民』はリニューアルして今秋大手の出版社から出版されることを打ち明け、三田市民に大きな期待をプレゼントしてくれた。

一方、二月八日より三月一七日まで宝塚歌劇で白洲次郎をテーマにした『黎明の風』が上演されている。これに関連し、

兵庫県を介して宝塚歌劇ともコネが出来、チラシの提供や展示協力の要請など、有り難いお話を頂いている。
川本幸民ふるさと読本やシナリオの作成も

更には、三田市も三田の偉人賢人をテーマにした

「ふるさと読本」を今年の四月から、先ずは『川本幸民』の編集・発行を皮切りに、今後一〇年にわたってシリーズ化の検討を表明してくれた。このような中で、三田市在住のある演出家から、最後の仕事として川本幸民を手掛けたいので資料の紹介や提供を要望するお申し出を頂いた。
ホームページで各地が注目
一方では、最近ホームページの更新が思うようにはかどらず、読者の方々に大変ご不満もたれているのではないかと恐れているが、ホームページを介して色々な方々からお問い合わせを頂いている。大河ドラマ実現を目指す陰阻影流愛洲移香齋久忠顕彰会の方々、化学史を研究されている日本基礎化学教育学会の方々、大河ドラマ実現を目指す滋賀県甲良町の在士むらづくり委員会の方々など。
何だか、我々の活動を取り巻く情勢が行動を伴うように変化してきたことを実感する。何か、大きな可能性を感じる年を迎えたことを喜んでいる。

黎明の風〜侍ジェントルマン白洲次郎の挑戦
あの「白洲次郎」が宝塚歌劇で！
兵庫県が毎年行っている青少年健全育成フォーラムの一環としてタカラヅカ歌劇によるミュージカル『黎明の風』が上演された。
舞台は終戦直後の廃墟と化した東京の街。進駐軍に困惑する日本人たちを背景に、「日本は戦争に負けたのであって、奴隷になつたわけではない」と、GHQに敢然と立ち向かう白洲次郎の登場から物語は始まった。そして、話は一転、昭和四年、英国留学から帰国した次郎と樺山家令嬢・正子の見合風景、思わず笑いを誘う。結婚後、商社マンとして世界で活躍する次郎は英国大使吉田茂や陸軍将校辰美英次と親交を持つ。世界で暗雲が立ち込める中、「戦争になれば必ず日本は負け、食糧難になる」と予測、戦争になれば田舎に隠居し、カントリーリゾートルマンとして政府を監視、いざという時に駆けつける」と公言し実行する。やがて終戦、連合国最高司令



官マツカーサーが厚木基地に降り立った。日本の政治、経済、言論がGHQに統制される中、首相になった吉田茂のもとで次郎はGHQの窓口として、「従順ならざる唯一の日本人」として政治の裏舞台で活躍、講和条約を締結、独立を果たすまでの一時間半の物語。笑いあり、涙あり、そして何よりもかっこよさが売り物の白洲次郎をタカラヅエンヌが演じるという正にびつたりの作品である。是非観劇をお勧めしたい作品である。尚、三月一七日までの期間中、会場入口に当会制作、白洲家三代紹介パネルの展示が行われているのでお見逃し無く。